

ISAHAYA



諫早湾干拓調整池の自然環境

諫早湾干拓調整池の誕生

小江干拓地

中央干拓地

干拓事業とともに生まれた自然環境

—長崎県諫早市と雲仙市に囲まれた諫早湾—

諫早湾干拓調整池は、諫早湾の湾奥部を平成9年4月に全長約7kmにおよぶ「潮受堤防」で締切ることにより誕生しました。その一方では、湾奥部に広がっていた干潟が消滅しました。この締切によって、それまで海であった環境は、年月の経過とともに塩分の低下がみられ、淡水性の多様な環境が生まれています。

大面積の淡水湖、干拓地の前面に広がる干陸地、干陸地に繁茂する広大なヨシの群落、淡水湖の周囲に広がる水際植物。この多様な環境は、多くの生きものたちの生育・生息の場所としての働きを持っており、植物、プランクトン、底生生物、魚類、昆虫類、両生類、は虫類、ほ乳類そして鳥類といったさまざまな生きものがみられるようになりました。この多様な環境に育まれた多くの生きものたちによって、調整池には豊かな生態系が形づくられてきています。

豊かな環境は、周囲の自然環境と一体となって、広大なスケールを誇る景観を創り出しています。



有明海

北部排水門

諫早湾

潮
受
堤
防

調整池

南部排水門

諫早湾干拓調整池

淡水性の多様な環境

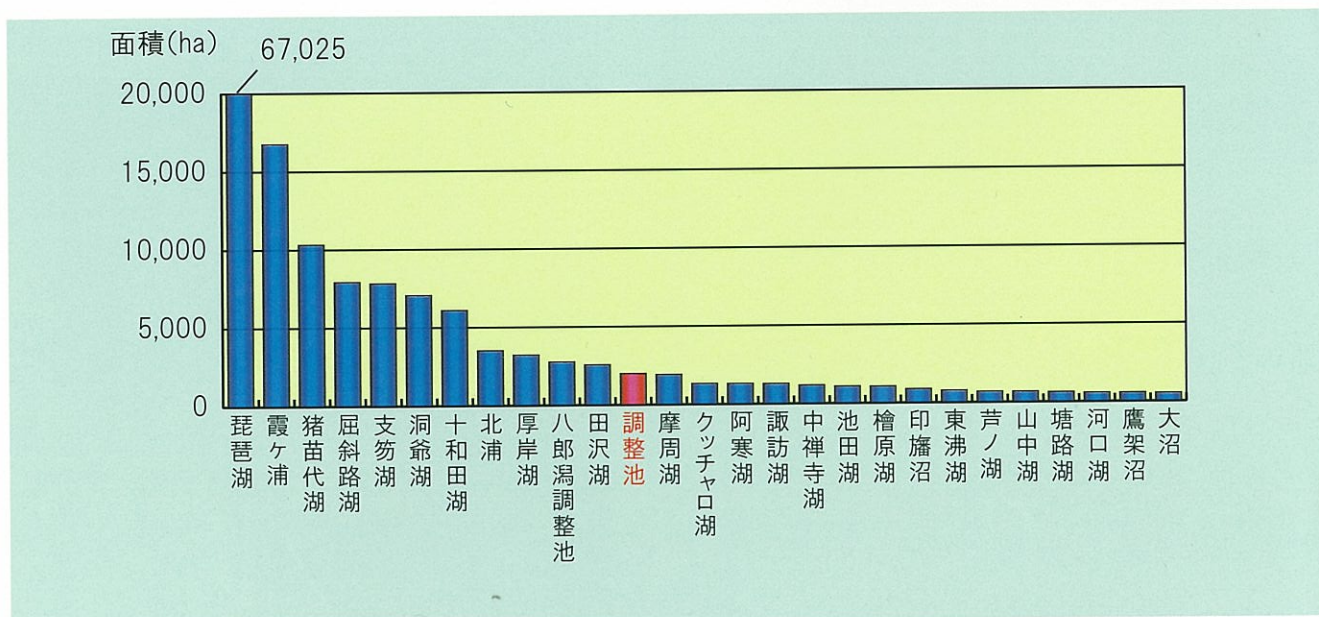
調整池を形づくる連続した3つの環境(水域・水際・干陸地)

1 水域

干陸地と潮受堤防によって囲まれた、面積約2,000ヘクタールの広大な淡水湖です。平均水深は約1.4m、最深部でも約3.0mの浅い水域を形成しています。その湖の規模は、淡水湖としては、九州最大面積(琵琶湖以西最大)であり、国内でも秋田県田沢湖(2,578ヘクタール)に次ぐ全国12位の面積です。



■ 調整池全景



■ 調整池と国内の淡水湖との面積比較(全国都道府県市区町村面積調:国土地理院)

調整池には、本明川河口の北部承水路、二反田川河口の南部承水路、有明川河口の有明承水路の3つの承水路があります。

承水路(しょうすいろ)とは、干拓地外から流入してくる水をスムーズに排水するために干拓地の周辺に造られた水路で、周囲にはヨシ、ヒメガマなどの植物が繁茂し、さまざまな生きものの生息場となっています。



■ 承水路



■ 水際に繁茂するヨシやヒメガマ

調整池は安定的に水位が管理されており、浅く静穏な水際部が形成されています。この調整池の周囲約15kmにわたって連なる水際には、ヨシやヒメガマなどの植物が繁茂しています。このような水域と陸域をつなぐ緩やかに変化する連続的な環境のことをエコトーン(移行帯)と呼びます。

エコトーンは、魚やエビ類等の生息場・産卵場、鳥類の休息場や営巣場、昆虫類や両生類の生息場などとして機能するほか、植物の生育により調整池の水質浄化にも役立っています。

3 干陸地

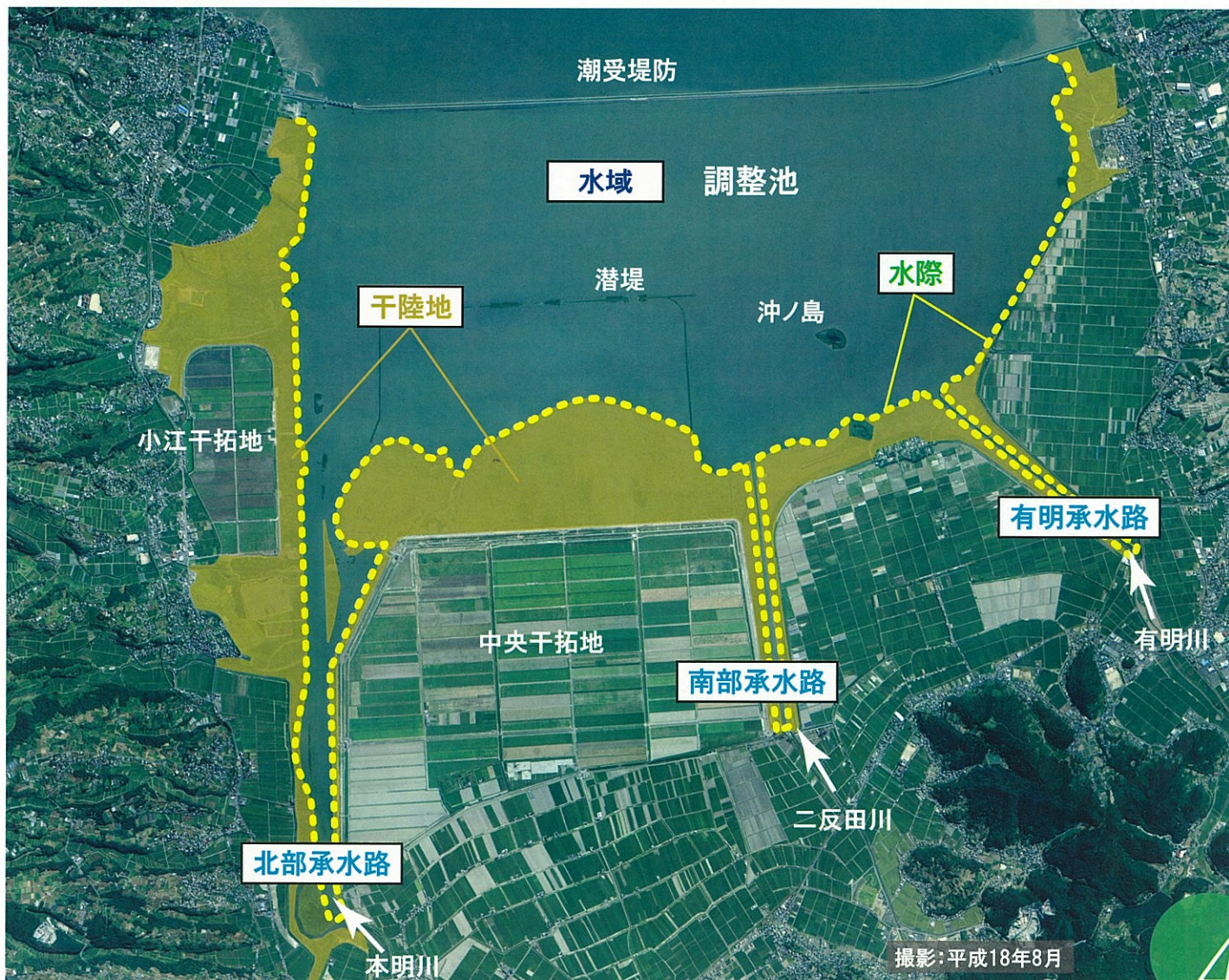


■ 中央干拓地前面の干陸地に広がるヨシ

潮受堤防の締切後は、水域の水位を標高※-1mで管理しているため、中央干拓地の前面や小江干拓地の周辺などに約600ヘクタールの干陸地が形成されています。

現在、干陸地では植生の遷移にともなって、約400ヘクタールにおよぶ広大なヨシの群落が広がっています。

※東京湾平均潮位を0mとしています。



撮影：平成18年8月